# 道徳教育に関わる評価（確認）

評価の公的な文書である「指導要録」の場合

**行動の記録**

- ◇基本的な生活習慣
- ◇健康・体力の向上
- ◇自主・自律
- ◇責任感
- ◇創意工夫
- ◇思いやり・協力　・・・

十分満足できる状況にあると判断される場合に〇印を付ける評価

**総合所見及び指導上参考となる諸事項**

↓

児童・生徒の成長の状況を総合的に捉え、記述する評価

教育活動全体で見られた
児童・生徒の道徳的な行為から見取る評価

# 道徳科の学習における評価の意義

**教　師**

教師が授業の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの

**児童・生徒**

自らの成長を実感し、意欲（道徳的実践へ向けた）の向上につながるもの

指導（授業）に生かされ、児童・生徒の成長につながる評価となっているか。

**指導（授業）と評価の一体化**

# 新学習指導要領の全面実施と学習評価の改善について（文部科学省）

## 学習指導要領改訂の考え方

新しい時代に必要となる資質･能力の育成と，学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
**学びに向かう力・人間性等**の涵養

生きて働く**知識・技能**の習得

未知の状況にも対応できる
**思考力・判断力・表現力**等の育成

### 何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し，
社会と連携･協働しながら，未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「社会に開かれた教育課程」の実現
各学校における「カリキュラム･マネジメント」の実現

### 何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質･能力を踏まえた
教科･科目等の新設や目標･内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化，高校の新科目「公共」の新設など

各教科等で育む資質･能力を明確化し，目標や内容を構造的に示す

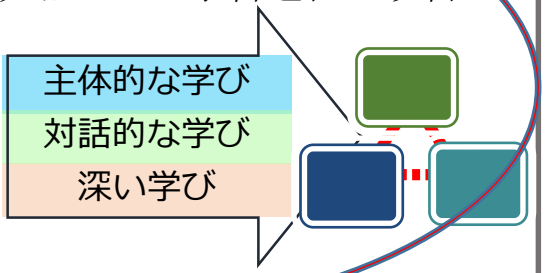
**学習内容の削減は行わない**※

### どのように学ぶか

主体的･対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識･技能の習得など，新しい時代に求められる資質･能力を育成

知識の量を削減せず，質の高い理解を図るための学習過程の質的改善




※高校教育については，些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており，そうした点を克服するため，重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

# 新学習指導要領の全面実施と学習評価の改善について（文部科学省）

主体的･対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識･技能の習得など，新しい時代に求められる資質･能力を育成

知識の量を削減せず，質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

学びを人生や社会に生かそうとする
**学びに向かう力**
・**人間性等**の涵養

生きて働く**知識**
・**技能**の習得

未知の状況にも対応できる
**思考力・判断力**
・**表現力**等の育成

# 新学習指導要領の構造(文部科学省)

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

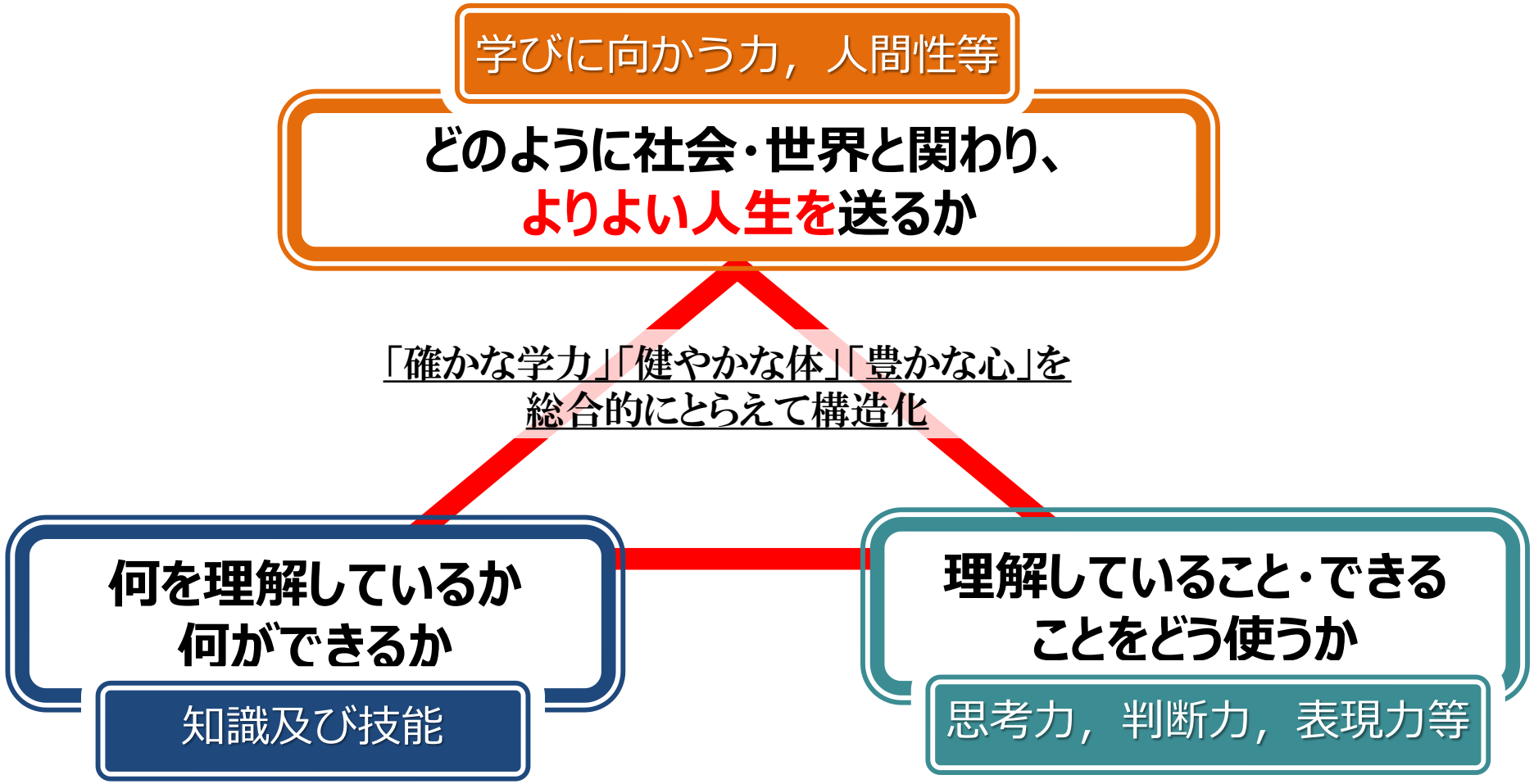
注目！

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成

学習指導要領改訂の考え方(一部抜粋)

# 新学習指導要領の全面実施と学習評価の改善について（文部科学省）
## 育成すべき資質・能力の三つの柱(一部抜粋)




**【参考】学校教育法第３０条第２項**

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう，基礎的な知識及び技能を習得させるとともに，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくみ，主体的に学習に取り組む態度を養うことに，特に意を用いなければならない。

# 新学習指導要領の構造(文部科学省)

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

どのように社会と関わり、
よりよい人生を送るか

注目！

育成すべき資質・能力の三つの柱(一部抜粋)

道徳科の授業改善に向けて確認したいこと。
（①～④と目標の関連）

# 道徳科の目標

第１章総則の第１の２の（２）に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、①道徳的諸価値についての理解を基に、③④自己を見つめ、②物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、 ③④自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

「新　小・中学校学習指導要領　第3章　特別の教科　道徳」

# 道徳科の授業改善に向けて確認したいこと。

## 道徳科の学習状況（学びの姿）から（例）

①　道徳的価値のよさや大切さについて考えようとしていたか。

②　道徳的価値について、一つの見方ではなく様々な角度から捉えて考えようとしていたか。

③　道徳的価値について、今までの実体験から感じたことを重ねて考えようとしていたか。

④　授業で学んだ道徳的価値のよさを感じ、これからの生き方に生かそうとしているか。

など

道徳性を養うための授業

# ねらい

例　生命はかけがえのないものであることを知り、懸命に生きようとする態度を育てる。

×道徳的価値がどれだけ理解できたか？

×道徳性の様相がどれだけ育ったか？

教師はねらい（道徳性を養うこと）を設定して授業に臨むが、そのねらいをゴールとして児童・生徒の評価は行わない。

# 指導（授業）と評価の一体化

**道徳科の授業は道徳性を養うために行うが、**

■　指導の結果として道徳性そのものの状態は把握（評価）することは難しい。

↓

■　そこで、「道徳性を養うための学び」がどうであったのかを把握することが、現実的な評価になる。

# 道徳科の評価（確認）

## 道徳科の授業で見られた児童・生徒の評価

児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

「第3章　特別の教科　道徳」の「第３　指導計画の作成と内容の取扱い」の４

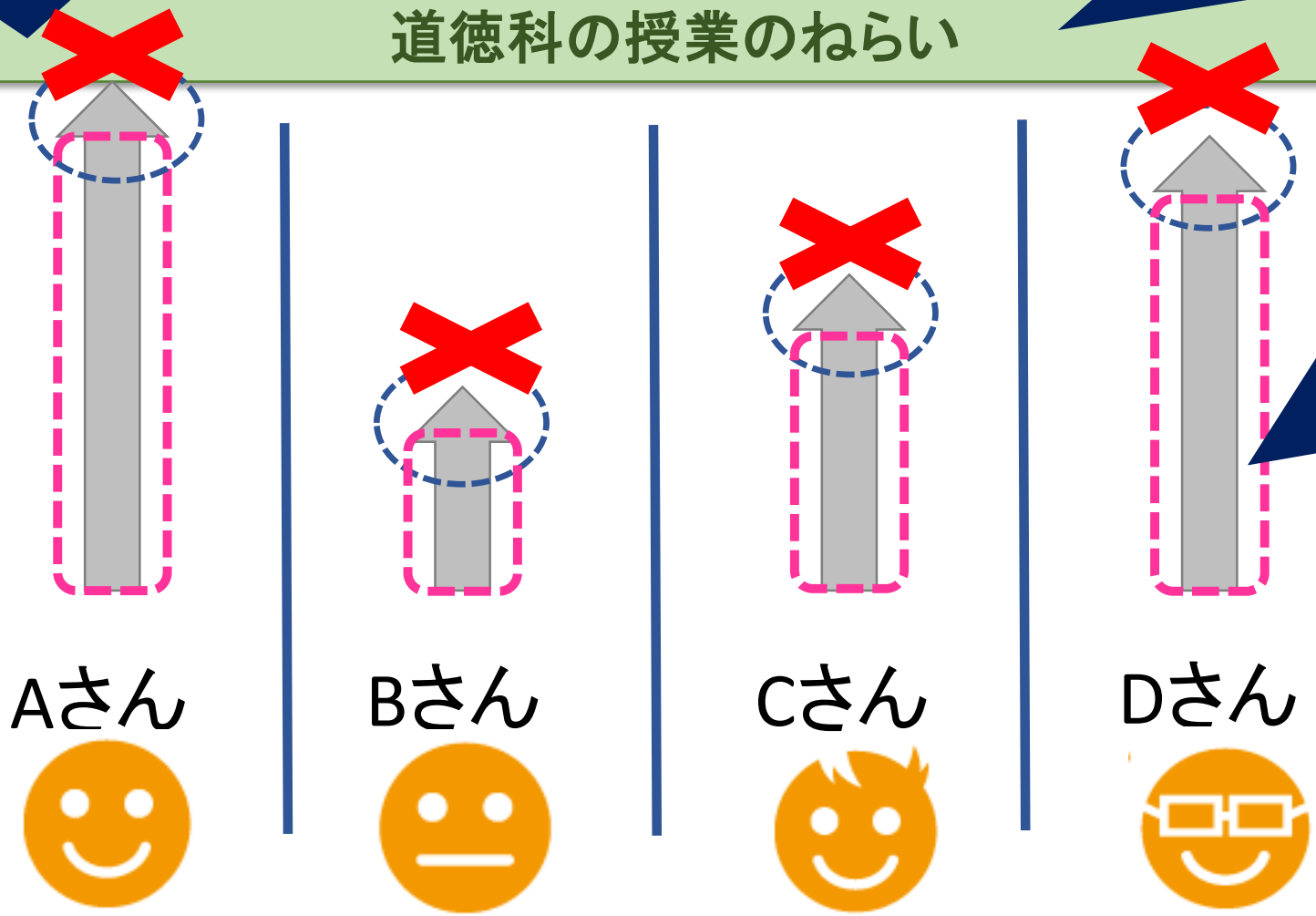
# 道徳科における評価

## 成長を受け止めて認め、励ます**個人内評価**

矢印の先（到達点）を評価するのではない

評価基準はなく、達成度は評価できない

道徳科の授業のねらい




評価するのは児童・生徒の学びの姿